



審判は、常に毅然とした態度で、両チームからの信頼を得ることが大事です。そして、一瞬のうちに判断するためには「いい位置で見る」、「ジャッジのタイミング」、「コールする形」が重要で、練習もします。

野球のルールは 縛るためのものではなく 野球をおもしろくするためにある



HITO

中本 尚^{たかし}さん (アマチュア野球審判員)

「プレイボール、主審の高々と上げた手とコールで、野球の試合が始まります。高校球児あこがれの甲子園など、アマチュア野球の審判員として活躍している中本尚さん（人間川在住）。岩国高校、早稲田大学、鷹宮製作所でプレイヤーとして活躍し、大学時代はリーグ優勝を経験、また、社会人では都市対抗野球大会にも出場した経歴の持ち主です。審判を始めたきつかけは、東京六大学野球の審判をしている大学時代の先輩から頼まれ、試合は土・日だし仕事にあまり支障がないだろう。」と思い軽い気持ちで引き受けたそうです。その後、社会人野球や甲子園の審判も務めるようになっていきました。甲子園での審判

は、ちょうど、清原、桑田を擁してPL学園が優勝した昭和60年の夏が最初でした。」と思い出深げに話してくれます。甲子園の好カードには5万人以上の入場者があり、声援で球場全体に地響きが沸き起こるそうです。「審判員はミスが無くても当たり前気の抜けない、緊張の約2時間です。試合前には、逃げ出したくなることもありますよ。」と本音もチラッと覗かせる中本さん。でも、良い試合になったとき、「この試合におれも参加しているんだ」という充実感。また、何事も無く試合を終えた後の「達成感」と「安堵感」、そして「爽快感」は何ものにも代え難い、無償の喜びです。」と話してくれます。

そもそも野球は、遊びから始まったものの、徐々に勝負にこだわるようになり、審判員が必要になりました。そのため、判定でもめないように、昔は審判員は人間的に信頼できる神父や市長が務めていたそうです。また、ルールも14項目だけだったのが楽しくゲームをするために、段々と増えていきました。

中本さんは、最近の少年野球は、勝負にこだわりすぎて、原点である、野球はおもしろいもの」とい



「海外試合などで、いろいろな人との出会いや経験ができたことが、私の財産です。」と語る中本さん。

ことを忘れていく気がします。もっと子ども達に野球の楽しさを教えてあげる必要があると思つのです。」と、最近になって、ようやくプレイヤーとは違った見方をする事ができるようになったそうです。

「審判員を始めてから22年、ここまで続けられたのは、会社が野球チームを持つことで理解があつたこと。そして何よりも、家族の理解と協力がなくては続けられませんでした。本当に感謝しています。」と笑顔で話してくれました。また、「荒唐無稽かもしれないけど、審判員を辞めたら、アフリカなど野球を知らない国の子ども達に野球の楽しさを教えてみたいですね。」と、いつまでも自分の夢を追い続ける中本さん。3月に開催される春の選抜高校野球大会での勇姿が今から楽しみです。

REPORTER'S EYE

智光山公園野外活動広場(キャンプ場)



【リポーター】
玉城雅子さん(笹井在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がレポートします。



問い合わせ・申し込み

公園管理事務所 ☎953 5111か
公共施設予約サービス・予約専用電話 ☎969 5711
(音声対応・プッシュ式) 狭山市公式ホームページへ
<http://www.city.sayama.saitama.jp/>

東京ドームが11個も入る大きさで、市が管理する公園としては県内で最も広い智光山公園。ふだんから、こども動物園やわんぱく広場などで子どもを遊ばせたり、自然を満喫しながらのウォーキングを楽しんだり、手軽なレジャースポットとしてよく利用されています。今回はその智光山公園に身近なアウトドア施設があるという聞き、公園管理事務所を訪ねました。

には屋根付きの炊事場や水洗トイレ、キャンプファイヤースクール、数点の木製の遊具などがあります。周囲を林と木道に囲まれ、ロケーションが素晴らしいこの施設では、春には桜の木の下でお花見キャンプが楽しめるということでした。また、ロッジは木の香りともくもりが伝わる素敵なフロアリングで、2階の窓から射込む朝の太陽を浴びて目覚めたら、とても清々しい一日が過ごせそうな部屋でした。ロッジには冷暖房設備はありませんが、気候の良い時期なら雨などの心配をせずにキャンプを楽しめそうです。



このキャンプ場では、キャンプスペースの貸し出しのみを行っているので、キャンプ用品や寝具などは自分で用意しなければなりません。しかし、準備が少々大変でもそれ以上に魅力的なのが料金です。なんと、テントサイトが1区画1泊300円、ロッジが1棟1千1千500円と、破格の安さです。

市内在住・在勤・在学の方と、ダイアプラン構成市である所沢・人間・飯能市在住の方なら、こんなに低料金で利用できるのです。また、それ以外の方も、倍額料金で利用できます。

このキャンプ場の開設期間は3～11月で、夏休み以外は休場日があります。休場日は冬季と目の行き届かない平日ですが、智光山公園は雑木林の多い公園なので、山火事などで貴重な武蔵野の緑を失つのを防ぐために閉めているという「ことば」なるほどと納得できました。

市内利用者は6か月前から、それ以外の方は5か月前から予約ができます。予約には公共施設予約サービスが利用できます(要登録)。複数区画を予約したい場合、電話でも申し込みます。全ての区画を予約すれば貸し切りにもできますので、100名以上の団体でも利用できるのはうれしいですね。

今月から、7月利用分の受け付けが始まっていますので、夏休みに智光山公園でのキャンプを予定してはいかがですか。